

令和2年6月26日



担当課	文化振興課 博物館
担当者	前田・額田
電話	(073) 423-0003
内線	

ヘンリー杉本生誕120年記念  
すきもと せかい  
夏季企画展「ヘンリー杉本の世界」

ヘンリー杉本が生誕して120周年になることと、ヘンリー杉本の油彩画36点が和歌山市指定文化財の新指定（令和2年5月12日、同日資料提供済）となったことを記念して開催します。

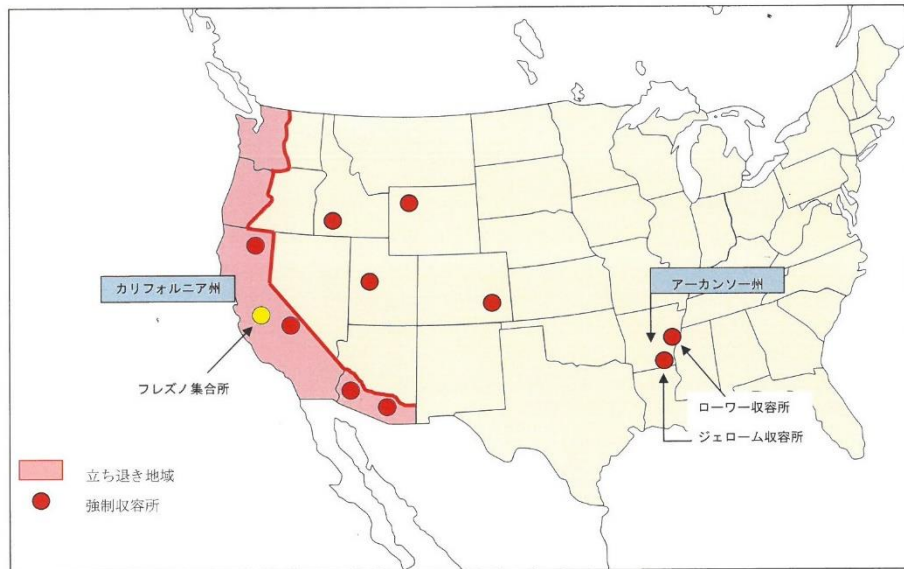
アメリカの日系人強制収容所での生活を記録した歴史絵画を一堂に公開！

ヘンリー杉本（1900-90）は、和歌山市出身の画家で、1919年にアメリカへ渡り、画家としての名声を得ました。しかし、第二次世界大戦が勃発すると、日系アメリカ人は強制収容所へ入れられました。彼は、限られた画材で収容所での生活の様子を描き続けました。

展覧会では、和歌山市に寄贈されたアメリカの収容所を描いた彼の作品を一堂に展示します。戦争に翻弄され自由を制限されながら、日系移民としてアメリカで生きぬいた人々の生活と、その苦難の歴史を知ることができます。

- ・期間 令和2年7月4日(土)～8月23日(日) ※開催日数43日
- ・休館日 月曜日・祝日の翌日(7月6日・13日・20日・25日・27日、8月3日・11日・17日)
- ・開館時間 9時～17時 ※ただし入館は16時30分まで
- ・会場 **和歌山市立博物館**（市民会館と和歌山放送の間）2階 特別展示室
- ・主催 和歌山市
- ・入館料 一般・大学生 100円 高校生以下 無料  
※障害者、本市発行老人優待利用券持参の方は無料  
※20名以上団体2割引
- ・展覧会関連イベントについて  
新型コロナウイルス感染防止のため、講演会、展示解説等の展覧会関連は行いません。  
よろしくご理解の程、お願いいたします。

## 収容所分布図



## 主な展示品 1

◆カリフォルニア州フレズノ集合所での昼食待ちの行列。炎天下、長蛇の列。



ヘンリー杉本 昼食前の列 1942年 油彩

◆ジェローム収容所での事件に抗議する  
日系人と星条旗を護る二世の少年たち。  
一世にとって日本は祖国だが、二世にと  
ってはアメリカが我が国であった。

油絵 36 点は和歌山市指定文化財



ヘンリー杉本 我が国旗を護る 1943年 油彩

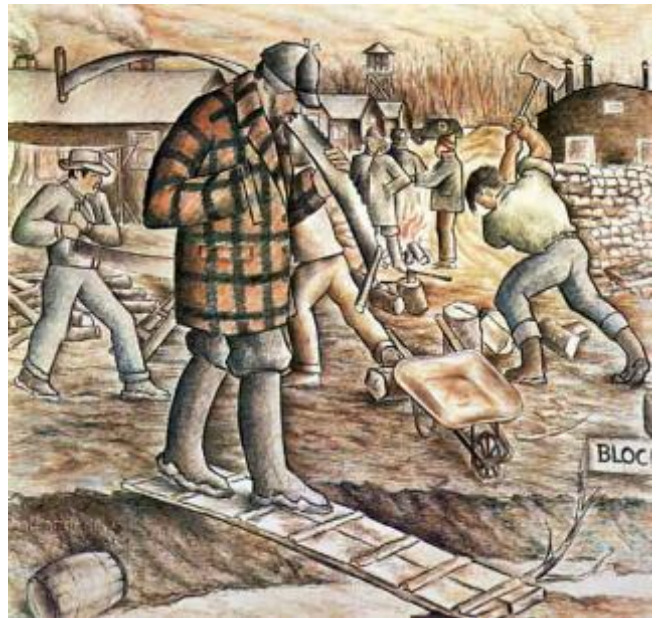


◆ヘンリーは収容所での衣食住、仕事など日常の暮らしを多く描いた。  
これは共同の洗濯場の様子。洗濯物だけでなく、食器や髪を洗っている。

不自由だが、食事は欠かさず頂いたので感謝と語る

ヘンリー杉本 洗濯場 油彩

◆ヘンリーは収容所での仕事、衣食住など日常の暮らしを多く描いた。収容所の外から木を切ってきて、部屋を暖めるストーブの薪を割っている。



8年ぶりの公開!

ヘンリー杉本 共に堪え忍ぼう 1943年 油彩



◆ジェローム収容所で、カリフォルニアの家へ帰りたいたいと母にせがむ少女。右下に傘をさし絵筆をとるヘンリー自身も描かれる。

詩人フレッチャーが詩を送った名品!

ヘンリー杉本 切望 1944年 油彩

◆アメリカの労働力不足を補うためローワー収容所から出ていく若い人たち



ヘンリー杉本 収容所よりの移動 1945年 油彩

◆ヘンリー杉本 略年譜

西暦	元号	月日	出来事
1900年	明治33年	3月12日	和歌山県海草郡湊村御膳松(現和歌山市湊)に父亀太郎(後、有逸と改名)、母寿の間に生まれる。
1903年	明治36年		
1912年	明治45年		海草郡湊村西部尋常高等小学校(現和歌山市立湊小学校)を卒業。
1919年	大正8年	5月15日	和歌山中学(現県立桐蔭高校)4年修業後、両親に呼び寄せられ渡米。
		6月3日	天洋丸、神戸からサンフランシスコに到着。カリフォルニア州ハンフォードで両親と暮らす。
1924年	大正13年		ハンフォード・ハイスクール卒業。
			カリフォルニア州オークランド芸術大学(現カリフォルニア・カレッジ・オブ・ジ・アーツ)に入学。
			その際、「ヘンリー」と名乗るようになる。
1928年	昭和3年		カリフォルニア州オークランド芸術大学卒業。バチェラー・オブ・ファインアートの学位を取得する。
1929年	昭和4年	9月	パリへ留学。
1931年	昭和6年	秋	サロン・ドートンヌに入選。
1932年	昭和7年	4月	帰米する。大恐慌により、両親に呼ばれて帰ったとも。
1933年	昭和8年		サンフランシスコ美術協会員に推挙される。以後毎年出品。
1934年	昭和9年	4月24日	ハンフォードのクリーニング店経営田川作太郎の娘スジコ(スジー)と結婚。
1936年	昭和11年		娘マドリエン誕生
1939年	昭和14年		サンフランシスコ世界博覧会美術展に招待出品し、金賞を受ける。
1942年	昭和17年	5月6日	フレズノ集合所へ入所。
		10月14日	アーカンソー州のジェローム収容所に移される。4日後に収容所へ到着。
1943年	昭和18年	1月4日	収容所内の学校で美術教師となる。
			忠誠登録が行われる。ヘンリーはYY(YesYes)組。父はNN(NoNo)組だった。
			弟ラルフが第442連隊に徴兵される。
1944年	昭和19年	2月1日～	ヘンドリック大学美術科主催で、同大学美術館にて収容所絵画の個展を開催。オープニングに出席する。フレッチャーが「切望」に感激し、詩をおくる。
		6月	ローワー収容所へ移る。ここでもハイスクールの美術教師となる。
		10月29日	ラルフがフランスで負傷する(1981年の公聴会の記録では25日となっている)。
1945年	昭和20年		繊維会社の仕事につく。
1948年	昭和23年		ライフ誌ならびに陸軍省主催のNew America展に招待出品する。
1953年	昭和28年	6月	移民帰化法成立により、アメリカ市民権を獲得する。
1962年	昭和37年		絵に専念するため繊維会社を退社し、パリへ渡る。
1963年	昭和38年		パリからの帰途、日本に立ち寄り、しばらく和歌山に滞在。
1964年	昭和39年		アメリカへ帰国。
1965年	昭和40年		第50回二科展に出品。第56回まで毎年出品する。
1968年	昭和43年		ニューヨークのウィナー画廊で個展を開催する。
1969年	昭和44年	9月1日～	東京日動画廊で個展を開催する。引き続き名古屋日動画廊、大阪日動画廊、和歌山市の小松画廊にて開催。
1976年	昭和51年		和歌山市長宇治田省三の依頼で、新庁舎のために大壁画を制作し寄贈。翌年、新庁舎に飾られる。
1980年	昭和55年	3月27日～	和歌山市の丸正百貨店、市民会館で収容所絵画展が開催され、大阪、広島、東京と巡回展示する。
1981年	昭和56年		勲六等単光旭日章を受章。
		11月23日	ニューヨークのルーズベルト・ホテルで行われた「戦時市民転住・収容に関する委員会」公聴会で、強制収容について絵をもって証言する。
1982年	昭和57年	11月29日	和歌山市文化賞を受賞。
1986年	昭和61年	4月20日	スミソニアン国立歴史博物館に絵画3点が寄贈され、その献納式がワシントンで行われる。
1990年	平成2年	5月8日	ニューヨークにて没する。
2007年	平成19年		和歌山市から偉人・先人顕彰を受ける。
2012年	平成24年		和歌山市立博物館で秋季特別展「ヘンリー杉本とその時代」を開催。

## 主な展示品の解説

### 収容所分布図

1941年、日米間で戦争が勃発すると、カリフォルニア州などアメリカ西海岸の立ち退き地域に住む日系人約11万人は、強制的に退去を命じられ、アメリカ国内にある10か所の強制収容所へ送られた。ヘンリー杉本はカリフォルニア州ハンフォードに住んでいたが、1942年5月に同州フレズノ集合所へ、同年10月にアーカンソー州ジェローム収容所へ、1944年6月に同州ローワー収容所へ移動させられた。

### 昼食前の列

Line Up for Lunch

1942年 油絵 257×118 cm

昼食の時間になると、それを知らせるラッパがなり、各長屋から老若男女が出てきて、食堂の入口前に長い列をつくって並び順番を待つ様子を描いている。フレズノの夏は暑さがきびしく、帽子をかぶったり日傘をさしているが、炎天下で長時間待つのは大変であった。

### 我が国旗を護る

Protecting Our Flag

1943年 油絵 161×178 cm

収容所を取り囲む有刺鉄線のそばを歩いていた老人がMP（陸軍憲兵隊）に誤って射殺されるという事件が起り、日系人たちの怒りが爆発した。食堂前のアメリカ国旗に危害を加えようとする人たちに対して、二世のボーイスカウトたちが駆け付けて国旗を護ったということを聞きつけて、その様子を描いたもの。二世にとってはアメリカが祖国であった。

### 洗濯場

Wash Room

油絵 196×133 cm

収容所には各区に食堂、シャワールーム、洗濯場などが設けられていた。ここでは洗濯板と石鹸を使って衣類を洗うだけでなく、洗髪する女性、お風呂代わりに浸かる小児も見える。奥には食器の洗い場もある。

### 共に堪え忍ぼう

Enduring Together

1943年 油絵 149×143 cm

ジェローム収容所の冬、燃料として使うため、若者たちが収容所の外で切ってきた丸太をストーブに入るくらいの大きさに切り、薪割りをしている。皆で共に助け合って、困難な時期を耐え忍ぼうということであろう。

### 切望

Longing

1944年 油絵 148×185 cm

カリフォルニアの象徴ゴールデンブリッジ等とジェローム収容所の風景を左右の背景に、いつ家に帰るのかと母にたずねる少女、雨の多い収容所で傘をさして絵を描く画家を中央手前に配し、ジェローム名物の雷の稲妻で画面構成している。ピューリッツァー賞を受賞した詩人のジョン・グールド・フレチャーはこの絵に自作の詩を寄せている。

### 収容所よりの移動

Onward to Another World

1945年 油絵 181×146 cm

日本の敗戦が濃厚になり、アメリカ政府は軍隊に労働力をとられて人手不足になったので若い日系人は仕事に就くよう要望してきた。所内での生活を不満に思う若い人たちは、トラックに乗って収容所を出ていくところ、食堂前で残った人たちと別れを惜しんだ。

生誕120年記念・和歌山市指定文化財記念

# ヘンリー杉本の世界

HENRY SUGIMOTO 1900-1990

2020 7.4(土)~8.23(日)

- 休館日 : 7月6日(月)・13日(月)・20日(月)・25(土)・27日(月)  
8月3日(月)・11日(火)・17日(月)
- 開館時間 : 9:00~17:00 (入館は16:30まで)
- 入館料 : 一般・大学生100円 高校生以下 無料  
※障害者、和歌山市老人優待利用券ご呈示の方は無料  
※団体は20名以上2割引
- 主催 : 和歌山市

和歌山市立博物館

Wakayama City Museum

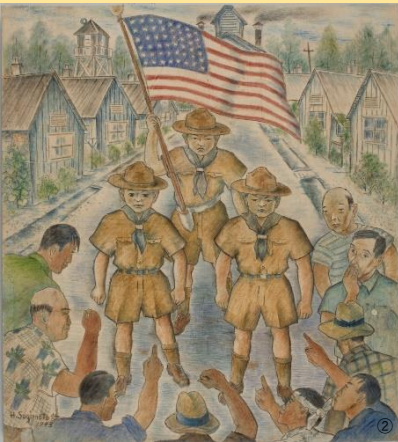
640-8222 和歌山市湊本町3-2 TEL073-423-0003

<http://www.wakayama-city-museum.jp>

# ヘンリー杉本の世界

## HENRY

## SUGIMOTO 1900-1990



ヘンリー杉本（杉本讓・ゆずる 1900 - 1990）は、海草郡湊村御膳松（現在の和歌山市湊）に生まれ、幼少時に両親がアメリカへ移民したため、母方の祖父母に育てられました。和歌山中学（現在の和歌山県立桐蔭高等学校）4年を修業後、両親に呼び寄せられて渡米し、カリフォルニア州ハンフォードに暮らします。ハウスボーイとして働きながら語学を習得し、カリフォルニア州オークランド芸術大学、カリフォルニア美術専門学校で絵画を学び、卒業後はパリへ留学しました。1932年に帰米し、画家として活躍が認められ始めた頃、太平洋戦争が始まり、日系人として収容所に入られます。杉本は、シーツをキャンバス代わりに収容所の様子を描いていき、それはのちに彼のライフワークになりました。本展覧会では、ヘンリー杉本生誕120年を記念して、日系移民の姿をつぶさに描いたその作品群を展示します。厳しさの中にも、どこか温かいまなざしが感じられる作品をご覧ください。



### 和歌山市立博物館

<http://www.wakayama-city-museum.jp>

TEL 073 - 423-0003

〒640 - 8222和歌山県和歌山市湊本町3 - 2

南海電鉄和歌山市駅から徒歩5分  
JR和歌山駅から和歌山バス乗車、  
和歌山市駅（終点）下車、徒歩5分

- ① 《休息の時》1942年（和歌山市立博物館）和歌山市指定文化財
- ② 《我が国旗を護る》1943年（和歌山市立博物館）和歌山市指定文化財
- ③ 《共に耐え忍ぼう》1943年（和歌山市立博物館）和歌山市指定文化財
- ④ 《食堂》（和歌山市立博物館）和歌山市指定文化財
- ⑤ 《自宅での散髪》（和歌山市立博物館）和歌山市指定文化財
- ⑥ 《収容所よりの移動》1945年（和歌山市立博物館）和歌山市指定文化財